

第114回 教育研究評議会 議事要旨

日 時：平成24年9月12日(水) 13:30～14:45

場 所：第一会議室

出席者： 21名 (欠席者5名)

議 題

1 第113回 教育研究評議会 議事要旨について

学長から、資料1に基づき、議事要旨(案)のとおり確認された旨の報告があり、審議の結果、これを承認した。

2 その他

学長から以下の発言があった。

- ・「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業「産学融合トップランナー発掘・養成システム」が平成23年度で終了したが、今後も定員枠を使って採用を行っていききたい。平成25年度の公募に向けて各系で、検討を願いたい。
- ・大学全体の基礎教育について、武藤理事・副学長を中心に検討を願いたい。
- ・週末に技大祭、父母等懇談会が開催されるのでご協力をお願いしたい。

報 告

1 代議員会報告

学長から、資料2に基づき、報告し、了承した。

以 上

トップランナー育成プログラムの中間評価の時にJSTにある約束をしている

このプログラムは今年の3月に終わっているが、終わっても毎年1名づつ採用する形を進めていく約束をしています。最初のプログラムを採用されて提出した、案が採用されたときに最初からそういう約束になっていた。その第1号が先ほどの王さんの採用になりました。公募する際は全て本学の持出になる。そういう覚悟で動いた

今フォローするようなプログラムもあります。我々が1名づつ採用するんであったらそれを新しく申請するそうすると新しく認められた場合はJSTから金がある。幸いなことにそれが成功(採択)しました。金額的には最初の支度金みたいなのが上限1500万とある金額がついています。それと今回の場合には本学にあるポジションを使う形になっています。今回採用された場合も電気系と環境・建設系が手持ちのポジションを使って「採用したい」話があったので、先ほどの人事が進んだ。

25年度に採用する予定の方に関しても来年度の費用が認められた形になっています。2年間分が認められた。研究費は3年間その他の経費を含めると5年間認められた。

今の政治状況で何が起こるか分からないが

来年度の新規の手続きに目指していかないといけない形になります。

その時に先ほど申しましたように本学にあるポジションを使ってに、なります電気系と環境・建設系から手を挙げていただき、その領域に絞った方々を公募した

今回もできればなるべく早く たとえば4月1日採用を考えた場合

たとえば10月の教授会、評議会において選考委員会を立ち上げる手続きを開始しなければならない そのあと公募が11月で 締切が1月として、教員選考委員会が1月の終わりにやるとすると面接が2月 3月の教授会にかけて4月の採用になる

各系で検討して

了解いただきたい話

今年の初期に予算案を作るときに研究費(特別研究費)あれを平均1割カットで計画を立てた。教授会の席で トップランナー(持ち出し分)フォローするプログラムが採択したら再配分に回すことで了解をいただいているが、今の状況(国債の特別立法)等では、トップランナーの育成資金をいただいたから、今すぐの再配分はできない。時期を見ないといけなくなったので了解願いたい。

今後学内の教育の中身等について検討を願いたいのですが、将来戦略チーム、将来検討委員会等で検討して、本学の基礎教育の分野をどうしてゆくか、全学の基礎教育力をどうするか、組織上では教育開発系が専門教育系の先生の協力を願いながら全体を仕切っていくのが本筋だと思うのですが その体制、合意事項が十分なされていない 教育開発系もそこまで腹をくくっていない その辺に関してどうするか案を早急に作り上げないといけない。

基礎教育をどうするか、どこかで合意する必要がある。武藤先生を中心に系長先生と検討を・・・協力願いたい。

大学の評価は博士課程(定員を埋める)の充実で決まる

日本と外国では博士の待遇が違う

ドクター、マスターのあり方も詰めていただきたい 過去にやったプログラムでいい部分をどう取り込むか 土曜、日曜日に技大祭 父母懇談会がある ご協力をお願いします。

地域の方は地方の大学だと思っているが、遠くからみえている